第37期第12回静岡県社会教育委員会

令和４年10月25日（水）

○委員長

ただいまから、第12回静岡県社会教育委員会を開催いたします。

本日は、２年間にわたる会合の最後の会となります。報告書と概要版を皆様のところに御提示しておりますが、そちらの了承を本日得られればと思っております。了承を得られた後には、早速、県の教育委員会で報告をさせていただき、教育長に手交して、県の教育行政に反映していただけるようにお願いしてまいります。

そう言いながらも、今日が最後の委員会で、皆様の御意見を聞かせていただく最後の機会となりますので、どうぞ忌憚のない御意見をお出しいただければと思います。よろしくお願いいたします。

本日の会の次第について、確認をします。

最初に事務局から、第11回社会教育委員会の開催結果の報告をいたします。その後、報告書について御協議をいただきます。最初、報告書全体について、その後に概要版について御意見を伺いたいと思います。最後に、皆様より御挨拶を一言ずつ、３分程度いただければと思います。

本日も皆様の御協力の下に円滑に会を進行できますよう、よろしくお願いいたします。

初めに第11回社会教育委員会の開催結果について、事務局から報告をお願いします。

○事務局

第11回社会教育委員会では、開会、報告の後に、報告書について長時間、御協議いただきました。

まず、協議の（１）第１章についてでは、数人の委員から、紙面上に空間やイラスト、表などを用いて、読み手が読んでみようと思うような体裁にしてはどうかという御意見をいただきました。（２）第２章についてでは、１章と２章のつながりを意識したわかりやすい前文に修正してみてはどうかという御意見をいただきました。

最後に（３）第３章について、御協議いただきました。ここでも章と章のつながりに関することや、報告書の全体のまとめに関することについて御意見をいただきました。

また、ワーキンググループ（以下、WG）で預からせていただいた御意見として、キーワードの数やキーワードの言葉について。また、報告書の構成順、「終わりに」と「委員を終えて」の構成順について、複数の委員から御意見をいただきました。

本日お配りした報告書の最終案に、その御意見や第11回の委員会の後に行った第５回WGでの協議

を反映させたものになっております。

○委員長

前回の委員会の概要について、何か御質問ございますか。

それでは、その委員会の話し合った内容については、WGの協議も経た上で、最終案に盛り込んでおりますので、早速、協議に移りたいと思います。

協議（１）第37期静岡県社会教育委員会報告書について、御意見を伺いたいと思います。第11回委員会で皆様から様々な意見を頂戴しました。これらを基に、先日WGを開催しまして、最終案をまとめました。そちらが最終案とついているものとなります。

まず、事務局から最終案について説明をお願いします。

○事務局

最初に、委員の皆様から事前に修正等のメールをいただきまして、ありがとうございました。

まず最終案の全体に関わることとして、字句の変更や誤字の修正などを数多くしてあります。いただいた意見は全て反映させていただいておりますので、御理解ください。

ここでは、大きな修正をしたところだけ報告させていただきます。

３ページの第１章についてです。前回の委員会からいろいろな意見をいただきましたので、小さなイラストを挿入したり、本文だけで説明していた調査結果の数字を表にしたり、紙面上の空間を意識した体裁にさせていただきました。また、表や図に番号をつけまして、分かりやすくしてあります。また、８ページの多様な背景を有した人たちの現状ということで、前回は性別についても少し触れてありましたが、用いていた内閣府のデータから、孤立しがちな人に議論をつなげるのは、少し考えが飛躍し、内容が不明確でしたので、削除させていただいております。

次、９ページからの第２章についてです。第２章のタイトルの部分に、今までは「要因とその分析」でしたが、これからは孤立について話すことを分かりやすく提示しようと、かぎ括弧で孤立を加え、「要因「孤立」とその分析」という形で示させていただきました。ほかには、１章と２章のつながりで、これまでは９ページの前文と第１章の８ページの終わりの部分と、内容が重複しておりましたので、重複を避ける形にして、かつ第２章から読み始めた人でも、第２章がどうしてこの孤立について扱うのか、できるだけ簡潔にした前文に修正させていただきました。

あともう一つ、孤立を作り出す状況②で、今までは「学びの機会」という言葉を使っていましたが、「学習機会」という表記にさせていただき、本文中に、学びの機会という語句が、１章から３

章まで使われていましたが、そちらは全て学習機会に統一してあります。ただし、学びの場という言葉はまだ使っています。

続いて、第３章になります。まずは、（１）（２）（３）（４）で節に起こす修正させていただきました。目次を見ていただくと、（１）で社会教育の強みを、（２）で打開策を述べ、（３）で学習機会と施設の充実にしました。そして、（４）で本報告書のまとめに当たる部分を追加させていただきました。また、全体の体裁として、第２章の図を第３章でも使い、章と章のつながりを意識しました。具体的には、第２章の図や孤立を打開するキーワードを強調するデザインにさせていただいて、同じように紙面上に空間を持たせて、読みやすくなるような体裁にさせていただきました。

最後の巻末資料、WGの審議の経過を１枚追加させていただいております。

間違い等、まだあるかと思いますので、この場で、もしくは御連絡いただければと思いますので、よろしくお願いいたします。

○委員長

大体の説明をしていただきました。図を３章にもそれぞれ入れ、ここの図のこのことについて、今言ってますということで、わかりやすさを促すことができればと思っております。また、キーワードのほうは、いろいろ御意見ありましたけど、結局二つずつで落ち着かせていただいた次第です。

このキーワードを、昨日、今日の仕事の中で、学校教育やほかの場、それに絡めて見ていったところ、これはキーワードになり得るなという実感はすごくありました。

私たちが、人から状況に視点を移していくところについて、先日ある市の家庭教育関係者の交流会で少しだけお話をさせていただいたときに、ここの議論と経過を示しながら、私たちが注目すべきは支援する人ではなくて、そうなってしまう状況に注目して、それは誰にでも起こり得ることなので、皆さん、家庭教育支援という場合も、それを意識して活動していただきたいとお話をしましたら、何かやる気を出していただけたようでした。そこに集まった方は、家庭教育支援員だけではなく、読書アドバイザーとスマホルールアドバイザー、三つの立場の方が集まっていたのですが、活発に交流をしてくださって、グループワークもしてくださって、みんなでつながって情報共有をして、家庭教育を支援していこうという雰囲気になっていただけたので、２年間のこの委員会での議論は非常に有意義なものだったのではないかと、勝手に喜んでいた次第です。

そういうことで、私たちのこの２年間の議論の経過を丁寧に報告することができているかと思いますけれども、更によりいい発信ができるように最後の検討をしたいと思いますので、御意見をい

ただければと思います。今日がこの報告書について御意見をいただく最後となりますので、言えばよかったということがないように、出し切っていただけたらありがたいです。

意見があるという方いらっしゃれば、手を挙げていただければと思いますが、いかがでしょうか。

○委員

全体を通しまして、前回、我々の要望事項というか、こうやったらいいのではというところを、いろいろと修正されており、挿絵も入っていて、読む手側から考えると非常にわかりやすく、読みやすくなっていると感じました。

全体を通して、我々は今回のこのテーマで、最初、障害のある人にテーマを当てて、いろいろと協議してきたわけですけど、それがだんだん、人もその要因にはなるのだけど、どちらかというと、人よりも状況に視点が変わっていったところも、この全体の文章から、こういうわけで変わっていったところが、わかりやすく書かれているので、大変いいかなと思っております。

私、一番、報告書の中でよかったなと思ったのは、そういう形で見方を変える、視点を変えると、いろいろ景色も変わってくるなというところが、このテーマよりももっとそういう形で、これからの社会教育を考える場合には、その一つのことに対しても、いろいろな視点で見ることによって見方が変わってきて、いろいろなところで課題だとか問題点も出てくるから、そういう見方をするのが大切ですねというところも、ここでうたってくれてるものですから、これからの時代に適したすばらしい報告書になってるのかなと感じました。

○委員長

そのほかいかがでしょうか。

○委員

確認依頼のメールをいただいた後、読ませていただきましたが、本当に読みたくなる報告書でした。一つだけお願いします。18ページの一番上、個々の持ち味を相互に評価し合っていくことができる共生社会の実現のためにも重要であるの記載について、個々の持ち味を相互に評価し合っていくことができる共生社会、この形容詞が何ともイメージがしにくかったです。

伝えたいことは、個々の持ち味を相互に評価していくこと、そういうことができるのが共生社会であって、それを実現していきたい、そのためにも重要であるということだと思いますが、丁寧な言い回しをしているだけに、説明を省かないようにしている意図もあると思いつつも、もう少し言

葉の工夫ができるといいかと思います。すごく大切なことを言っているので。
個々の持ち味を相互に評価していく、評価し合っていく地域共生社会の実現ぐらいでもいいのかなと。とても大事なことなので、少し加除修正が必要と思った次第です。

○委員長

個々の持ち味を相互に評価し合うというフレーズは、特にはいいですか。

○委員

いいです。

○委員長

それに続く「ことができる」はなくてもいいですか。

○委員

いいと思います。それによって、意図するところが変わってしまうことがなければと思ったので。

○委員長

では、「ことができる」は削除でお願いします。
そのほかいかがでしょうか。

○委員

前回意見を言わせていただいて、その後、送られてきたものを拝見したら、さらっときれいな構成になっているものですから驚きまして、本当にありがとうございます。
感想ですが、すごくメッセージ性のあるものができたなと思ってます。こんなふうに打開したらどうだと具体的に柱を立て、図もかなり工夫していただいて、とても伝わりやすいものになったかなと思います。
あと、私たちのテーマと関連して、国の中央教育審議会生涯学習分科会でも、似たようなテーマで答申をまとめていらっしゃいます。見比べて、全然違う結論になってます。国ですので施策的なまとめ方になってますが、私たちの方が、住民に近い分だけ特色のある分析と結論とになり、その分メッセージ性が強くなったのかなと思います。

47都道府県、いろいろな解釈の仕方があるかもしれませんが、本当に先進的なまとめ方になったかなと思ってます。

○委員

これまで議論してきた内容が、上手にまとめられたなというのが第一印象です。行政では、結構難しい文章をたくさん読んでいるのですけど、それらに比べるととても読みやすい、そしてイメージが湧きやすい内容になったなという感想です。現場サイドの目線で作られた報告書だと感じておりました。

イラストの入れ方もとても上手で。昔に広報で広報誌も作ったこともあるのですが、プロがレイアウトしたような感じで、前回のものから比べると雲泥の差のようなデザインになってるし、内容もすごい起承転結でわかりやすいし、イメージしやすいものになったなと思います。

私は、まちづくりという形で、地域のコミュニケーションを推進する仕事をしているのですが、自分の仕事に対しても、とてもいい教科書になったなと。また読み返して、地域の皆さんに集まっていただけるような、興味を引けるような事業に、これが参考になるのかなと思いました。

本当に皆さんの英知が、知見が詰まった報告書になったと思います。

○委員長

学校教育の側からいいですか。

○委員

個人的な感想として、人から状況に視点を変えた経緯が、これ読んでいて、とてもよく分かります。それに関わる大切な部分が何回か出てくるので、読んでいくうちに、そういう視点に、多分読み手が変わっていくのかなと思いました。

それから、この図がとてもよくできているのですが、さらにそれぞれのページに、言葉はなくても注目すべき部分に色がついているので、わかりやすくて、ここのことを言っているのだというのがとても伝わります。

キーワードも大きく示していただいて、こういうことなのだと、とてもわかりやすいなと思いました。

それに付け加えて、社会教育の取組例があることで、さらに言いたいことが明確になっているように思います。そんなすばらしい工夫をしていただいたなと、本当にありがたいなと思います。

人を変えるのは結構難しく、どうやったらいいのかなって行き詰まってしまうと思いますが、視点が状況に移ったわけで、状況を変えることが社会教育としてできるかもしれないという提案だと思います。そうすると、参加したいと思って、人も変わるかもしれません。そういう可能性を何か感じることができる報告書になったのではないかなと、とても感激しました。

○委員

皆様の意見を聞き、確かにそうだと思いました。最初に人に着目し、困り感を、皆さんと熟議してきたからこそ見えてきたものがありました。

最初に着目するのは人であって、その人がどんな生活を望んでいるのか、どういうことを希望しているのかに着目する必要はあったと、２年間振り返って思います。

学校では氷山モデルといい、見えている部分に注目しがちですけど、その原因は何かと、氷山の見えない部分を見る方法で行動観察をしています。今回も様々な立場の方がその原因を探る、氷山の見えない部分についてたくさん話をしたことで、今後連携していくことの大切さが見えてきたと思いました。

○委員長

次、お願いします。

○委員

皆さんの意見とほぼ同じような内容なので、特に目新しいことはないですけど、感想として、２年間、私たちは議論を重ねてきたので、この報告書を読んで、そのことがすごく思い出されて、こんなこと話したなと、感慨深いものもありました。

それが、議論されてない側、ほかの方が読んだ場合に、どんなふうに感じるのかなということに立場を変えて読んでみたところ、前回は本当に苦しい部分が結構あったのですが、今回は表が入ったり、挿絵が入ったりすることで、すごく読みやすい文になって、ほかの方が読んでも、私たちが議論したことが伝わるのではないかなと思って、すごくうれしくなりました。

いろいろな立場の方が同じことに対して考えるのは、大切なことなんだなとつくづく感じました。自分は障害のことしかわからなくて、すごく不安なこともあったのですけど、皆さんの意見を聞くことによって、ここの文章に言い換えると、学びの場に私もなりました。

○委員長

副委員長、何か指摘ありますか。

○副委員長

修正を求めるとかではないですが、状況に目を向けるという視点は、意外と違和感というか、なかなか理解しにくい部分なのだろうと思うのです。

やはり人をどう変えるかに注目しがちなので、多分、この会議では共有されていますが、いざ文章にしたときに、どこまで伝わるかというのが、正直なところでです。

我々がこれを使って、それぞれの立場で伝えていくことによって、何とか理解してもらう感じになるでしょうか。

内容的には特に意見ありません。

○委員長

いろいろな仕事をしていく中で、この議論をここでしてきたことは、すごくほかの仕事に役に立ったなと思います。あまり細かくは言えないですが、行政なり、いろいろな仕組みができてしまってるこの世の中だと、いろいろなことが起こったときに、組織対応をしていくわけです。その組織で対応していくときのターゲットを、何か起こした人とか、何かがあるって人に向けると、向けた対策は、一瞬は効果が出るのでしょうけど、組織全体の改革になっているのか。ヒューマンエラーみたいなことがいっぱい起きたときの根本的な対策を取れているのかと考えると、人だけに向けているとあまり効果が結局はなくなって、費用対効果は悪いのだろうなと。

だけど、その背景にある状況に目を向けることは、先ほどの委員も少し言っていましたが、見えないところを、人の結果として出てくる前の事情にアプローチしてるから、そこを変えていくので、最終的には組織自体がちゃんと変われて、エラーとか何か起こることも減っていくのだと思います。そこを整理できた感じがして。そのときにどのような視点が必要かといったら、そのキーワードが出せたのかなと。

私も、これからどう動くと、どういうふうに変われていくのかというときのヒントが、頭の中が少し整理できた気分だったのかなと感じてます。

あるところで行われてる自主的な夜間教室の事例を詳細に見ることができたので、それについて、それに関わる人が、今こういうところが課題で、こういう長所があるのだと書いてくれたのを、この視点で見てみたら、これができてるから、その教室はうまく運営できているのだな。でも、ここ

が課題と思ってるのは、その連携がまだ足りてないとか、人材不足なのだなと整理することができました。このキーワードで事例を見ていけば、足りないところを補うような取組を参考にしてやっていけばいいので、改善にもつながるし、使ってもらえるものは、少しは出せたかなと思いました。

皆様からいろいろな事例を、本当に関わってるお立場から出していただけたことが、すごく有効なキーワードを出せることになれたのかなと思います。

それは、国の会議ではなかなかできないことかもしれなかったので、県の社会教育委員の皆さんでできたことかなということで、よかったかなと思います。

こんなに評価をしていただけると思っていなくて、まだ御意見を言ってもらうつもりでいたものですから。でも、前回の御指摘、的確なものが多く、またそれを取り入れて、このような形にできましたので、ありがたいと思っております。

それでも、ここをこうしてほしいということがあれば、まだ時間ありますので、この委員会後、後日、また事務局に御意見いただいても構いませんので、よろしくお願いいたします。

○委員

皆さんのお話と、今の副委員長のお話を聞いて、やはりと思ったのですけれど、先ほどの、18ページのところです。共生社会を、地域共生社会への変更を提案します。

この報告書を読んだとき、例えば、26ページの最後、孤立を自分にも起こり得ることとして捉えて、お互いに認め合おうという文章を読んだときに、本当に感動しました。恐らく、福祉分野からすると、この報告書は今まで考えてきた理想というか、こうあってほしいなというものが全部入っていると感じています。そう思ったときに、共生社会よりも地域共生社会のほうがいいかもしれません。

いろいろな分野で、今、地域共生社会という言葉が使われています。国も地域共生社会と言っているので、こんなにいろいろな分野の方たちと、私たち福祉職も入れていただきながら協議し作成する報告書なので、今後、連携していく上でも地域を入れたほうがいいかと思います。よろしくお願いします。

○委員長

分かりました。貴重な御意見をありがとうございます。

地域を入れたほうが、福祉の人が興味を持っていただけるってことですよね。

○委員

そうです、そういうことです。

孤立という言葉を考えたときに、御意見の中で、孤立というキーワードが入っていたほうが反応するのではないか、読んでもらえるのではないか、ヒットするのではないかという議論があったと思います。

そう思うと、やはり共生社会よりも、今、地域共生社会という言葉のほうが聞くことが多いので、キーワード的にも地域共生社会のほうがいいのかなと思いました。

○委員長

静岡県に向け、県民の皆さんに向けたということですから、地域を入れさせていただいてよろしいでしょうか。

○委員

報告書をしげしげと内容などを見させていただきまして、１点だけ意見があります。

それぞれの挿絵ですけど、例えば23ページの一番上が、学習機会が不十分だということで△になっていて、その打開策ではそこは○になっています。

この挿絵で、その前のページを見ていただきますと、右側にある円柱が、今、倒れかかっているのが、打開策をやって真っすぐ倒れないような状態になっている。自分の意見としましては、この挿絵も倒れているのを倒れないような形にして、○だよとやったほうが、打開策というイメージが、前のページの流れから見ていくと、同じような流れになるのかなと感じたものですから、そこだけ、どうなのかなということで気になりました。

○委員長

学習機会・施設の充実に向けての、下図の「○」のときは、傾いてるのが全部立ってるほうがいいですか。

○委員

学習機会があれば、倒れかかっているのが立ってるよというところが、そんなイメージのほうがいいのかなと思ったものですから。

○委員長

少し検討をさせてください。

学習機会・施設が充実すると、それは基本的にベースの部分でいいということ、大事ということです。多分、倒れかけているのが、それぞれに①・②・③の状況ゆえに傾いているものですから、そことの兼ね合いですよね。

①・②・③を立て直さないと、学習機会だけ充実したら立つのかと言われるとそうでもないよとなるものですから、少し考えます。

○委員

その前のページ、それぞれの説明文のところで、最初は倒れかかってるけれど、対策して、打開策では、絵としては真っすぐになってるよってそれぞれ書かれてるから。そういう流れでくると、ここの倒れかかってる絵が、真っすぐになったイメージのほうがという意味です。

○委員長

そのほかは、よろしいでしょうか。

それでは、報告書本体への御意見は、一応ここで終わりにさせていただいて、また御意見あれば、事務局によろしくお願いします。

次に報告書の概要版について、こちらも皆様から御意見を伺いたいと思います。

まずは、事務局から説明をお願いします。

○事務局

こちらの概要版は、報告書を要約したものになります。１章の現状については、簡潔に書かせていただきました。数的なデータがあるものだけを書かせていただきました。

２章は、人から状況に視点が変わっていき、状況を三つにまとめたことが、最も重要な箇所かと思いますので、その部分を記載してあります。３章に関しては、皆様の御意見から導かれたキーワードですとか、社会教育の特長や今回の協議を通してのまとめが記載してあります。

先ほど協議の中で、共生社会の話がありました。そこは修正させていただきます。

あとは、図の画素が粗いものになってますが、それは何とか工夫して、この後、修正させていただきます。

○委員長

２章の図と３章での打開策と、そのキーワードを目立たせたい概要にさせていただきました。１章等については、説明不足感が拭えないところもあるかもしれませんが、紙面の都合もあって、このような形にさせていただきました。

こちらについて、何か御意見ありますでしょうか。

恐らく教育委員会での報告も、報告書を読んでいただくよりは、こちらの概要版で説明をしていくことになります。これは絶対伝わるように目立たしたほうがよい、そこの字は大きくしたほうがいいとか、総合的な意見でも構いませんが、いかがでしょうか。

○委員

内容が凝縮されていて、読みやすいというかわかりやすいです。

質問ですけど、１番、２番、３番は、第１章・第２章・第３章ということですよね。

○委員長

そういうことです。

○委員

あと、１章と３章は目次のタイトルと一緒ですけど、２番だけ、誰もが共に学び合うという言葉は、あえて取っているということでしょうか。

この報告書を読んだときに、全て、誰もが共に学び合う、という言葉が入っていて、後半が違う言葉になっているため、連携しているものだと思いました。

ただ、この概要版を見たときに、別になくても通じるのですが、そうやって読んでいたものですから、あえてなしなのかどうなのか。ただ単純に疑問に思っただけです。

○委員長

１、２、３じゃなくて、第１章・第２章のほうがいいですね。概要は、報告書が第１章、第２章、第３章って言ってるので。あと、章のタイトルも、そのままのほうがいいですね。ここに対応した概要を書いたというのが、はっきりするのでいいかと思います。

○委員

質問ですが、１番の学習の場やプログラムの意識で、学習の場やプログラムが身近にある30.5％は、この報告書のどこに、この数字はありますか。

その下の学ぶ場に出かけていく勇気がない、あまりないというのは、５ページの表の中に入ってるんですが。

○事務局

４ページの本文中です。

○委員

わかりました。

紙面上の都合で難しいかとは思うのですけど、あまりこの数字だとインパクトがなくて、障害者への学習活動支援とか支援体制の部分は、低いので、そういった低めの数字も入れると、ちょっと強くインパクトを与えられるかなと思いました。

○委員長

そうですね。ちょっとインパクトがある数字を探して置き換えますか。

報告書にある中からピックアップしていけば、指摘はされないと思うので。

○委員

最初の第１章のときの議論の中に、あまりにも低いなという印象が自分にあったので、この数字だけを見ると、そんなにそれを感じなかったので。実際、現状はかなり低かったという印象がありました。自分も調べた中で、障害者が生涯学習に参加しているのが、ほぼ周りでは見られなかったので、そういう数字が出てるといいかなって印象を持ちました。

○委員長

表にしたものから取っていく方法もありますね。５ページの表１とか表２。表１からは、この学ぶ場に出かけていく勇気がない、あまりないというのは出ているのだけど、障害者への学習活動支援の支援体制の有無。こういう事業や組織って、結構ないということですよね。これは、明らかに学習機会が十分ではないわけなので、それを出してもいいかもしれないですね。

この点もWGで預からせていただいて、ここがインパクトがある数字になるよう、ちょっと検討してみます。

○委員

教えてください。３章の①社会全体に文章の１行目、いろいろな人とあります。いろいろな人でよいでしょうか。報告書も18ページで、いろいろな人となっています。

その次の行、小さいときは、幼少期のことですか。

○委員長

そういうことでいいと思います。

○委員

いろいろな人は、言いたい意味は分かりますが。何という言葉を使ったらよいのか、今、出てきません。

○委員長

多様な人ならいいのでしょうか。今は、多様性って言いますから。

○委員

多種多様とか、そのような意味合いですね。

○委員

多種多様もそうだと思います、または、より多くのという意味もあると思います。

○委員長

これ、量も言っていますもんね。

○副委員長

「いろいろな人」のニュアンスに敏感な方へのリスクマネジメントを講じるほうが良いと思います。特に概要版は一人歩きしかねないので。

小さいときというのは、幼少期とか年齢のことだと思うので、それは表現の修正でいいと思うのですけど。

私ども気づかなくて申し訳ないですが、ちょっと避けておいたほうがいいかもしれないですね。

○委員

ここですけど、多くの人と関わるというニュアンスでどうでしょうかね。

○委員長

量も入りますね、そうですね。では、多くの人ということで。そしたら、本文も多くの人に変えますか。

小さいときからは幼少期に変える方向でいきます。

そのほかは、いかがでしょうか。

○副委員長

表現とかではなくて、概要版の見せ方ですが、先ほどの「学習機会・施設の充実に向けて」のキーワードの「連携」・「人材」のところで、学習機会を充実するのはベースに当たるところなので、そういう見せ方になるといいと思います。

この学習機会の充実は、その上の状況の打開の前提としてあって、それが充実した上で、上の状況が打開されなければならないということで、並列ではないと思うのですよ。

先ほどの図の見せ方の御指摘も、それに関わってくることなので、そこを概要版ではうまく表せないかなって思うのですけど。

○委員長

節の番号に似たものを行頭につけてみますか。

○副委員長

学習機会に関する記述を囲みか何かで、打開策を支える矢印をつけるとか。あるいは右か左かに出してみるとか。

○委員長

並列じゃないよというのが、ぱっと見てわかる形ですね。

ちょっと考えましょう。

○副委員長

それと相まって、本文23ページの図が変わってくるのだろうと。

場合によっては、社会教育の連携・人材を取り組んだらこうなるという図が、打開策と同じ見せ方ではなくなる。あるいは要らないかもしれない。連携・人材という見出しはあってもいいと思いますけど、学習機会の充実だけで倒れているわけではないので、この図を載せないほうがいいかもしれない。

○委員長

（３）では、図は載せないでいいですか。

○副委員長

ええ。それと関連して、概要版も、内容が変わるわけではないですけど、工夫すればいいのかなと。

さっき言った囲みにしてつながるとか、支えるみたいな図にするとか、矢印をつけるとか。というぐらいのことなんだろうと思うのですけど。構造が見えるようにしたほうがいいかなと。

○委員長

では、３章の部分、もうちょっと構造がわかるように、点線とか実線とか入れるだけでも、ちょっとは違いますね。

では、そこを工夫していきたいと思います。

そのほかは、いかがでしょうか。

何点か御指摘いただいた部分、WGで預からせていただいて、概要版、確かに副委員長が指摘してくれたように、よく概要版だけ独り歩きしていくときがすごくあるので、しっかりと報告書の中身が適切に反映された形で独り歩きしてもらえるように、もう少し工夫をしてみたいと思います。

様々な御指摘ありがとうございました。おおむね全体としては御了承いただけたということで、報告書と概要版と、よろしいでしょうか。

ありがとうございました。

それでは、本日の協議はここまでとさせていただきます。有意義な御意見、ありがとうございました。

ここから皆様から一言ずつ、第37期を振り返ってお話をいただければと思います。

着席順で、お一人３分程度でお願いできればと思います。

では、よろしくお願いします。

○委員

この２年間、委員会に参加させていただきまして、また、いろいろ御準備をいただいて、本当に感謝しております。とてもいいものができたと思ってますし、私自身も勉強させていただきました。

感想ですが、答申の最後のほうに、社会教育もアップデートと書かれているのを見たときに、はっとしました。それこそ、今、時代はＩＣＴ とかＤＸだとか、どんどん新しいものが登場します。とてもよく思うのは、人の心まではデジタル化しませんし、複雑なまま新しいものが被さってくるので、どんどん人の心が見えなくなっているのかなって思います。

そういった中で、こういうことが大切ではないかと社会に訴えかけるこの委員会の活動が、有意義になっていると思います。

本当にありがとうございました。

○委員

２年間、本当にありがとうございました。

この社会教育委員会に参加させていただいて、視野がちょっと広がったなと思います。日頃、小学校・中学校、つまり義務教育や学校教育のことだけを今まで考えていたなと思いました。世の中の教育全体のことをちょっとだけ考えることができて、本当にありがたい機会をいただきました。

全ての回数出席したかったのですが、１回だけ欠席をしまして残念でした。全ての回に参加していたら、もっともっと視野が広がったかなと思います。

私としては、義務教育の９年間で、子供たちの学びの素地を育てることが、本当に大切なんだなと改めて感じました。いろいろと話し合った中で、状況に目を向けて、広げていったらいいなと思ったのですが、ただ、学ぶ本人も学びたいと思う経験をたくさんしていくことがポイントなのかなと思います。

誰もが学校に入学をして、小学校６年間と中学校３年間は通る道ですので、そこでもっと知りた

いとか、学びたいとか、友達と関わり合いたいとか、そういう経験を積み重ねることが、将来、９年間よりももっと長い人生の中で役に立っていくのかなと思いました。

これからも、学校の中で子供たちを支えながら頑張っていきたいと思います。ありがとうございました。

○委員

２年間、とても有意義な会議に参加させていただきまして、ありがとうございました。

今日の会議の内容の中でも、委員から、地域共生という言葉について御意見をいただいたのですが、決して福祉の分野だけではなくて、私が今、仕事としてやっていますコミュニティ推進の関係でも、多分学校もそうです。今、学校も働き方改革で、先生と学校と地域が共生していくという歩みを進めている。

我々、まちづくりに関するコミュニティ推進についても、この地域共生という形で、福祉分野もそうですし、いろいろな方々と協働していく。そして、これまでやってくれるだろう、課題は誰かが解決してくれるだろうという社会から脱出して、協働で自分たちが課題解決をしていこうというコミュニティ団体を構成していこうと、こういうことに取り組んでいるのですが、相手が理解をしていただかなければ進まない事業ばかりです。

先ほどのＩＣＴやＤＸで、それらの理解や活用のほうが簡単です。人に理解をしていただくほうがよっぽど難しい、大変なことですけど、これに取り組んでいこうとしているわけです。社会教育についても、我々は生涯学習という観点で、もっと広いフィールドで取組をかけています。

これは、いわゆるコミュニティ、人と人とのつながり。我々は、地域行動科学みたいな分野になるわけですが、その辺をやるに当たって、この２年間の経験は、大変、私にとって大きなステップアップだったと思います。

実は私、来年の３月で退職になるのですけれども、この次のステップにも生かしていけたらなと思っております。本当にありがとうございました。

○委員

２年間、学ばせていただきました。ありがとうございました。

人の一生の中で、学校教育は、ほんの12年間です。でも、学校教育の12年間は、一生の中でとても貴重な時間であることが再確認できました。

学ぶことが楽しい。日々、やった、できた、もっとやりたいを繰り返し、学ぶことが楽しいと思

う子供たちを育てることが、その後の社会に出たときに、自らまた学んでいくであろうという夢や希望も見えました。

この委員会で、様々な立場の皆様と協議できたことは私の財産になりました。今回一緒に協議させていただいた皆様とは、これからもつながっていき、何かのときに助けていただける、そんな関係を続けていきたいと思いました。

昨日、本校では学校運営協議会がありました。福祉避難所のことについて熟議をしました。地域の方、様々な立場の方がそろうと、たくさんの知恵が降ってくるという経験をしました。この委員会でもしました。

今後も様々な方とつながりながら、見方・考え方を変えたり、働かせたりしながら、情報発信に努めていきたいと思います。２年間、ありがとうございました。

○委員

２年間、生涯学習社会の形成に向けて、皆さんと一緒に御協議いただきまして、本当にありがとうございました。

私は、市町の社会教育委員という立場で参加をさせていただきました。社会教育といいますと、学校教育以外のことは、みんな社会教育だということですので、非常に範囲が広いといったことで、自分も視点を広くして見なくてはいけないのかなと思っているのですが、広いがゆえに、だんだん、いつか、あるときには視点が狭くなっていく、そんな自分もいるのかなと感じておりました。

今回も、最初、人から始まって、だんだん状況に変わって、状況をいかにクリアにしていくかというところが議論になって。私もふと、いや、自分も広い立場で見なくてはいけないのに、今いる自分の立ち位置が狭くなっているのかなと感じたものですから、非常にこの委員会で勉強させていただいて、振り返る機会になりました。

今度、こういう形で、私も県の社会教育委員会に参加させていただきましたので、地元に帰りまして、当市の社会教育委員会議で、今回のテーマはこういう形で皆さんと検討して、こういう形で報告書ができましたよと、概要版を使って説明をしていきたいと思います。

私が説明するに当たって、自分のキーワードが三つあります。一つが気づき、二つ目が自分事、三つ目がアクション、それを踏まえて説明をしていきたいと思っています。

この会議の中で、人から状況に変わる、そういう気づきがないとアクションにもつながらない。気づいても、それを自分事として捉えないとアクションにつながらない。最終的にはこういう報告書を見ても、そういう思いだけじゃなくて、それが次のアクションに繋がっていくことが大事。大

きなことでなくてもいいから、小さなことでもいいですから、そこのアクションにつながっていかないと、本当の成果は現れてこないかなと思っております。

そのように、アクションにつながるように、当市の社会教育委員の皆さんにも丁寧に説明して、自分事として捉えてもらって、アクションができる形で、これからも社会教育委員の活動が進めていければいいかなと思っております。

本当に皆さん、２年間ありがとうございました。

○委員

最初にこちらの会議のお話をいただいたときに、自分には重度の知的障害の娘がいて、自閉症で。育成会の活動としては啓発活動をしているので、何ができるのかなと、すごい不安でした。

ただ、実際に会議に参加しましたところ、皆さんのいろいろな御意見を聞くことによって、自分の立場として、自分の個人のこともそうですし、あとは障害の当事者の会としての発言をしていくことに常に気をつけて発言していました。

ただ、会議はとても緊張しまして、最後の最後の今も緊張してますが、大変有意義な会で勉強になりました。

今後の活動を見直す機会にもなりまして、障害者が生涯学習をするに当たっては、周りの理解が不可欠かなって思ってますので、今やっている啓発活動、13年目になりましたが、今後も続けていくことと、全国的にも啓発活動が広がっていて、先日も全国大会みたいのがあって、推進委員として出かけてきたのですが、全国で今、102のキャラバン隊が発足してまして、それぞれの地域で活動をしています。ですので、静岡県内だけでなく、いろいろなところで障害理解が進んでいければ、生涯学習に入っていける人たちも増えていくのではないかなと思っています。

本当にたまたまですが、今回、９月から、文部科学省の令和４年度学校卒業後における障害者の学びの支援に関する実践研究事業の、たけ文学校、障害のある人を核とした学びの場という協議会に参加することが決まりまして、お声を掛けていただきました。育成会の同じ立場で参加をすることになりました。今回の２年間のこちらでの学びが生かせる場が、またすぐにできて本当にうれしく思っています。

本当に今まで２年間、ありがとうございました。

○委員

この２年間、本当にありがとうございました。

正直、最初にこのお話を受けたときには、お受けしていいものか、とても悩みながらのスタートでした。今の委員と同じく、今日も緊張しています。私の中では、本当にこの会議は緊張する場でした。

ただ、参加するのが楽しみだったことも本当です。今日を迎えるに当たって、どうしてこんなにこの会議が楽しみだったのか、参加したいと思ったのかを考えました。とても印象に残っている場面として、皆さんもおっしゃっていましたが、社会で孤立しがちな人をテーマに、グループワークでお話をしたとき、皆さんとフリートークで意見を共有したときの雰囲気のよさだったり、そのグループワークの報告がなされる中での委員長の言葉で、届けたい人に届けない施策が本当に多いと感じていらっしゃること、成果物をまとめていくと、幅広い表現をどうしても取らないといけないから、結局わかってないのに作ったのではと言われるような、そのようなものは作りたくないのだと、そこに苦慮しているのだという言葉にとても共感しました。

今日、この報告書がそんなところに陥ってないなと、今までの報告書と違うところは、そこに皆さんが共感したからではないかなと思っています。

また、恐らく一番の山場であった社会で孤立しがちな人の特徴の分類と、言い回しの表現を変えられるかどうかの議論の中では、正直考えあぐねて、まとめ切れなかったですと、副委員長が最初にそれを言ってくださったことで、それぞれの違和感のようなものも含めて、全員が意見を出し合って、その中で議論が、焦点がかみ合って、人から状況へ視点を変えましょうと、今後の検討の方向が一致した場面は本当に印象に残っています。

そこを見ていくと、この会は苦悩していることを率直に伝えていい、そういう雰囲気がありまして、どんな意見を言っても受け止めてくれる寛容さもあり、それをみんなで整理していく賢明さがありました。

それぞれの意見を尊重しながら考えていく中で、望ましいあり方はどこかなというところを、みんなで探りながら収めていく。私は、中庸の徳という言葉がとても好きなのですが、そんなものがそこに現れて、だから心地よく感じられたのかなと思うに至りました。

私にとって、今日、この報告書にあるキーワードの、学ぶ楽しさ、居場所づくりにある安心感。その要素の安心感が、ここに保証されていたのかなと思います。こんなに緊張しても、そこにその安心感があれば、やっぱり参加するのが楽しいと思えるのだなと。自分の体感の中で、本当にそう思いました。それを保証してくださった委員の皆様と、いつも親切に丁寧に対応してくださった事務局の皆さんに、心から感謝をお伝えしたいと思います。

最後に、第10回の会合のときだったと思いますが、福祉の基盤が整えば、社会教育の取組は広が

る。福祉がしっかりしないと教育にはたどり着かないですねという言葉がありました。福祉の専門に身を置くものとして、これからも地に足をつけて、多くの人と連携、協働しながら活動していきたいと思います。

２年間、マスク越しにお会いして、次にお会いしたときにマスクを外したら、もしかしたら分からないかもしれないとも思いますが、ぜひ、何かのときにはお声掛けしていただきたいなと思います。私もお声掛けさせていただきます。ありがとうございました。

○事務局

本日欠席の委員の挨拶を読み上げさせていただきます。

「委員の皆様、事務局の皆様、２年間ありがとうございました。突然の用件が入ってしまい、今回は欠席させていただきます。

まず、担当させていただきました「おわりに」について異色だと思われたでしょうが、御理解ください。新聞記事は毎日書いていても、どうも勝手が分からず、今回は記者用ワープロ、１行10字の縦書きで書いてみた結果、コラムのようになってしまいました。木に竹を接いだようで読みにくく、しかも長ったらしくなったことをお許しください。

「おわりに」にも書いたとおり、孤立は誰にでも起こり得ることだと気づけたことが、個人的には一番の収穫でした。障害や言葉、デジタル機器に不慣れなことだけが、孤立の要因ではないことに気づくことができました。様々な孤立要因の解決に知恵を出し合い、必要な施設・設備を整えること、人材が育つことが豊かな郷土づくりにつながると思います。私も日常の職務を通じて寄与できればと、居ずまいを正しました。

難しいテーマでしたが、報告書案を読み返してみて、正副委員長のハンドリングと、事務局の丁寧な進行で、一つの節目に到着した感があります。この先の道のりは長く、しかも平たんではないようです。ありがとうございました。」

○委員長

それでは、副委員長、お願いします。

○副委員長

２年間、いろいろありがとうございました。

私自身もいろいろ考えながらというか、考えを変えながらでしたが、快く受け入れ、寛容に議論

に取り入れてくださったことに感謝しています。

もともとは社会教育って学校教育の補完的な役割に過ぎなかったものであったし、どちらかというと、言葉が適切かどうか分かりませんが、割と元気があって、やる気はある人たちのものだったのですが、今回は社会的なセーフティーネットとして、なかなか行き届かない人にも、学習機会などを支えるために、教育という枠に捉われずにやらなければならない時代に来たのだというところに、この報告書の意義があると思います。

いろいろなところで御活躍の委員の皆様と一緒に、途中、グループワークや意見交換の場を上手くやれたことで、私自身も学習できたと感謝しております。

あとは、これをどういうふうに発信していくか、広めていくかが、これからの課題なのかなと個人的には思っております。

また、何かの折には御指導のほどよろしくお願いいたします。

○委員長

最後に私のほうから。２年間、本当にありがとうございました。

皆様の御意見にありましたように、２年間、いろいろな場面を思い浮かべることができます。

前半の議論の中では、ある委員からのＩＣＦの考え方を御紹介いただいて、今、時代は変わったなとすごく覚えています。

それと、皆さんのお話にありましたけど、人のことを一生懸命考えていたら、もうどうにもならなくなって、どうしようといったときに、いや、そうではなくて状況だよと。協議の焦点がこれになって、それで多分、この結論がようやく出せるようになって、そこは光が差したような気持ちになりました。そして、この孤立の状況の図を作り、さらに状況が整理できるようになって。最初、このお話を受けたとき、ゴールはどこに行くのだろうって、私自身も見えてなかったところがあったのですが、本当にありがたかったです。

委員の挨拶の中に、この場が、いろいろ発言ができる、委員同士の関係性が築けていると、もったいないような言葉がありました。静岡県社会教育委員を長く務めている中で、前期ぐらいから福祉の方にも入っていただくような構成になりまして、それより前は、学校教育の関係者の方には入っていただくことはあったのですが、どっちかというと社会教育の関係者の集まりという形で。だから、お互いがお互いのことは分かってるから、それで会議は、その中でうまくいくはずだというところは若干あったかなと思うのです。

それが、前期に、がらりと変わって、福祉関係の方などが入ってきて、私もうまく進められない

ところもあって、十分な議論が尽くせたかどうかは、まだまだ足りなかったかなという反省点もありました。

そういう中で、今期の福祉の方、障害者の関係の方も含めて、それから社会教育課だけじゃなく、まちづくりの首長部局の方にも入っていただいているという中で、熟議というか、いろいろな議論を出し、一緒に悩みながらもゴールが目指せる、見えて、結論が出たことは本当にありがたいことでございました。

また、前期は任期の最後のところでコロナ禍になって、そこも大きな原因だったと思いますが、この２年間、ウィズコロナの中でマスクをしながら、以前はよく懇親会とかも開きながら委員同士の結束を固めていくこともありましたが、今期はそのようなこともなく、辛うじてグループワークは事務局で用意してくれてできました。その貴重な時間を使いながら、皆様で同じ考えを共有し、ここまでいけたのは、本当に私も勉強になりましたし、有意義な成果になれたかなと思います。

仕事の関係で、ある大学の先生の話をオンラインで、最近聞く機会があったのですが、それは、教師の資質能力と学びのあり方という教員研修のことなのですね。

皆さんも御存知のとおり、更新講習制度が廃止されて、今、実は教員養成ってどこに行くのだというのは、大学側からすると、すごい関心事なのです。今まで更新講習を開いてきた側としては、今までやってきたことをどうすればいいのかと。そういう関心もあって、その話を聞いていたら、その中に、この委員会で議論したことが、いっぱい出てくるのです。教師は学び続けなければならないのだ。そして、学校は学び合う文化をつくらなければいけないとか。これからの教師は、伴走者と言ってましたね。教えるのではなくて、一緒に探究していく人でなければいけないとか。何だ、私たちそのようなこと、もう２年間も議論してきたではないかと思いました。

ですから、世の中、やはり教育の見方が変わってきて、不確実な変動の激しい世の中を生き抜いていくための力を、どうやって、どういう学習機会を保障することで身に付けていってもらうというか、お互い身に付けていくのかを模索してる時代なのだなと感じました。

今こそ、社会教育の物の見方が、もっと皆さんに目を向けてもらって、有効にいろいろな場で使っていただけたらなと思った次第です。

先ほどもお話ししましたが、コロナ禍でなかなか人が集えない中で、しかしながら、このような報告書にできましたこと、本当に皆様のおかげと思っております。２年間、本当にありがとうございました。

それでは、私の議事進行は終わりになりますので、事務局にお返しします。

○事務局

委員長、議事進行ありがとうございました。

また、委員の皆様、本日も長時間にわたり御協議いただきありがとうございました。

最後に事務局から２点、閉会の挨拶と事務連絡をさせていただきます。

それでは、閉会に際しまして、静岡県教育委員会教育長から皆様に御挨拶申し上げます。

○教育長

皆様、こんにちは。

最後の回に、皆さんに御議論いただいたことに感謝を申し上げたいと思いまして参りました。

第12回社会教育委員会に御出席をいただきまして、またこの間、熱心な御議論いただきまして、ありがとうございます。

委員の皆様には、２年間で12回、二月に１回のペースで、誰もが共に学び合う生涯学習社会の形成に向けてというテーマで、事例報告、またグループワークを交えながら、大変熱心に御協議いただいたと伺っております。

また本日、まとめの報告書について、最終の検討がなされて、11月に開催される県教育委員会定例会において、松永委員長、白木副委員長より御報告をいただけると伺っております。誠にありがとうございます。

社会で孤立しがちな人たちに対して、どういうふうに社会教育というチャンネルが機能していくべきかと、大変興味を持っています。

たまたま、今、概要に出ているこの図を見て、ボウリングのピンを思い浮かべました。恐らく、皆さん、お読みになったことあるかどうかわかりませんが、「孤独なボウリング」という本があります。アメリカの社会的孤立を扱った研究書です。

アメリカでは、かつては仲間がみんな集まってボウリングをやっていた。ところが、仲間もいなくなって孤立して、一人で黙々とボウリングをやっている。それは非常にわかりやすい事例ですけど、どんなふうに社会的孤立が生まれていくのかを分析した研究書です。

それを思い浮かべて図を見ると、まさにボウリングになっていて。これでは駄目なんだ、きちっと立たないと駄目なんだという内容に、今から興味がそそられているところであります。

今回のこの報告書も、外国籍の方に限りませんが、今の時代でなかなか困難を抱えている人たちが、社会教育というチャンネルを通じて様々なつながりを持って、それが生きる力になっていくと。そんな社会に向けて、私ども努力をしていきたいと考えております。

皆様からいただいたこの御提言を真摯に受け止めて、多様性を尊重する教育、また生涯を通じた学びの機会の充実を図るために、可能な限り県教委の事業に反映させていきたいと思っております。

また、今回御提言の内容につきましては、市町の教育委員会を初め、地域の社会教育関係者や社会福祉関係者、さらには県民の皆様にも広く伝えていきたいと考えております。

終わりになりますが、委員長、副委員長初め、熱心な御議論をいただきました委員の皆様に、改めて厚く御礼申し上げます。

皆様方のますますの御活躍を祈念するとともに、今後も変わらぬ御指導、御協力をお願いいたしまして、私の挨拶とさせていただきます。２年間、どうもありがとうございました。

○事務局

それでは、事務連絡２点、手短にお願いします。

１点目です。報告書と概要版について、本日の御意見をWGで預からせていただきましたので、この後検討させていただきます。

また、必要に応じて皆様にメールを差し上げますので、また御確認をお願いいたします。

また、報告書が完成しましたら、皆様に印刷して郵送いたしますので、御活用ください。

２点目です。会議録の作成がありますので、よろしくお願いします。これまでと同じように、およそ２週間後に会議録を皆様にお送りしますので、修正と確認をよろしくお願いいたします。

事務連絡は以上になります。

以上をもちまして、第12回静岡県社会教育委員会を終了いたします。

２年間にわたり御協議いただき、本当にありがとうございました。